ボランティア通信　―27―　2014.10.23

千葉県がんセンターボランティア支援室

弦の響きを心に刻むように、目を瞑って聴き入りました

深まりゆく秋の宵を音楽で楽しんでいただこうと、「加藤玲名 Violin Concert」が 10 月 23 日（木）緩和センター談話室で午後 5 時から、外来ホールで 6 時半から開かれました。今回で 3 回目となったボランティアコンサート、初めてピアノ伴奏に横林純子さんが加わってくださり、お二人の素敵なドレス姿が病院の日常とは違った雰囲気を醸し出して、ひと時の劇場気分に浸ることができました。

演奏曲目はクラシックからバッハの「ゴールドベルグ変奏曲アリア」・モンティ作曲「チャルダッシュ」、タンゴの「ラ・クンパルシータ」「ジェラシー」、童謡「赤とんぼ」「もみじ」「里の秋」、「アナと雪の女王　レット・イット・ゴー」「花は咲く」「にじいろ」などを熱演。演奏の合間には加藤さんの手にしているヴァイオリンが 1610 年のイタリア製であること、東日本大震災復興を願って、今年も 7 月に釜石市でコンサートをしてきたことなどを話してくださいました。オープニングでは「生のヴァイオリンとピアノの演奏を聴く機会は多くはないと思います。どうぞゆっくり楽しんでください」と、永田病院長から挨拶がありました。患者さんの中にはコンサート慣れされている方もいらっしゃったようで、演奏終了後に「アンコール！」のひと声。しかも「マイクを通さないで演奏してほしい」という要望がありました。最後の曲は、マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ　間奏曲」を、ご要望通り生で聴かせてくださいました。音の響きに集中するように目を瞑って、じっと聴き入っていらっしゃる患者さん。「生の音はやっぱりいい。心が癒される。こういう企画を、またよろしく！」とおっしゃって病室へ戻られていく患者さんもいらっしゃいました。緩和の談話室ではベッドの傍に寄って語りかけるように演奏していただき、その温かな音色に涙ぐむご家族の姿も見受けられました。加藤さん、横林さん、素敵な演奏をありがとうございました。